

清田中央地区町内会連合会 創立30周年記念誌

資料編

清田中央地区町内会連合会 創立30周年記念誌

資料編

清田中央地区町内会連合会 歴代役員名簿

歴代役員名簿

		平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度
顧問		見上権治郎	見上権治郎	見上権治郎	見上権治郎
常任相談役		守屋 保夫 北澤 治	守屋 保夫 北澤 治	守屋 保夫 北澤 治	守屋 保夫 北澤 治
会長		桐生 重春	桐生 重春	桐生 重春	桐生 重春
副会長	兼総務部長	中内 春松	中内 春松	中内 春松	中内 春松
	兼財務部長	北垣 尊男	北垣 尊男	北垣 尊男	北垣 尊男
	兼事業関係担当	杉本 勝昭	杉本 勝昭	杉本 勝昭	杉本 勝昭
監事	咲間 光雄 松本 順一	金子 正一 松本 順一	金子 正一 松本 順一	金子 正一 松本 順一	
福祉厚生部長	山越 幸民	加賀谷正光	加賀谷正光	加賀谷正光	
保健衛生部長	水谷 愷一	水谷 愷一	岩瀬 義一	岩瀬 義一	
防災防犯部長	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔	
交通安全対策部長	加藤 猛	加藤 猛	加藤 猛	加藤 猛	
青少年育成部長	岩瀬 義一	溝口 國高	溝口 國高	溝口 國高	
体育部長	山田 修	山田 修	山田 修	山田 修	
女性部長	森 美代子	森 美代子	森 美代子	森 美代子	
理事		土肥 正豊	土肥 正豊	土肥 正豊	土肥 正豊
		斉藤 静子	斉藤 静子	斉藤 静子	菅野 常明
		春木 政明	岩瀬 義一	飯間 昇	飯間 昇
		細海 誠男	吉村 信治	吉村 信治	吉村 信治
		金子 正一	小鷹 菊枝	小鷹 菊枝	小鷹 菊枝

歴代職員名簿

清田中央連絡所				
所長	土屋 雅之	土屋 雅之	遠田啓治郎	遠田啓治郎
職員	沖野三津子	佐々木政雄	佐々木政雄	佐々木政雄
		沖野三津子	沖野三津子	塚原 四郎
				高井 静香
会館管理人	玉本 虎夫	玉本 虎夫	玉本 虎夫	玉本 虎夫
				雨宮 稔

平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度
見上権治郎 菅井 盈	菅井 盈	菅井 盈	菅井 盈	菅井 盈	恩村 一郎
守屋 保夫 北澤 治	北澤 治	北澤 治	北澤 治		中内 春松
桐生 重春	桐生 重春	桐生 重春	桐生 重春	桐生 重春	桐生 重春 杉本 勝昭
中内 春松 杉本 勝昭	中内 春松 杉本 勝昭	中内 春松 杉本 勝昭	中内 春松 杉本 勝昭	中内 春松 杉本 勝昭	加賀谷正光 杉本 勝昭 金子 正一
岩瀬 義一	岩瀬 義一	岩瀬 義一	玉野源四郎	玉野源四郎	金子 正一 土肥 勇
金子 正一 松本 順一	金子 正一 玉野源四郎	金子 正一 玉野源四郎	金子 正一 玉野源四郎	金子 正一 玉野源四郎	松原 隆一 山田幸四郎
加賀谷正光	加賀谷正光	山越 幸民	山越 幸民	山越 幸民	山越 幸民
飯間 昇	菅野 常明	菅野 常明	菅野 常明	菅野 常明	菅野 常明
雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔
加藤 猛	加藤 猛	加藤 猛	加藤 猛	加藤 猛	加藤 猛
溝口 國高	溝口 國高	加賀谷正光	加賀谷正光	加賀谷正光	加賀谷正光
山田 修	山田 修	山田 修	山田 修	山田 修	山下 紀雄
森 美代子	森 美代子	森 美代子	森 美代子	森 美代子	森 美代子
土肥 勇	土肥 勇	土肥 勇	土肥 勇	土肥 勇	青木 一夫
菅野 常明	松原 隆一	松原 隆一	青木 一夫	青木 一夫	斉藤 正敏
玉野源四郎	森田 秀弘	森田 秀弘	斉藤 正敏	斉藤 正敏	松村 明
吉村 信治	山越 幸民	富井 敏夫	富井 敏夫	松村 明	黒澤 勝昭
春木 政明	春木 政明	山田幸四郎	山田幸四郎	山田幸四郎 大藤 喜一	田村 順平 臼井 敏勝 大藤 喜一

清田中央連絡所

遠田啓治郎	石川 豊治	石川 豊治	岡村 龍一	岡村 龍一	岡村 龍一
塚原 四郎	塚原 四郎	塚原 四郎	白沢 定弘	白沢 定弘	白沢 定弘
高井 静香	高井 静香	白沢 定弘 吉田裕美子	吉田裕美子	吉田裕美子	佐藤 成子 工藤千万子
雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔

歴代役員名簿

		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
顧 問 会	長	恩村 一郎 杉本 勝昭	恩村 一郎 杉本 勝昭	恩村 一郎 加賀谷正光	恩村 一郎 加賀谷正光
	副 会 長	加賀谷正光 金子 正一 青木 一夫	加賀谷正光 金子 正一 青木 一夫	青木 一夫 金子 正一 松原 隆一	青木 一夫 金子 正一 松原 隆一
監 事		松原 隆一 菅野 常明	松原 隆一 菅野 常明	菅野 常明 黒澤 勝昭	菅野 常明 黒澤 勝昭
	総務・財務部長				
福祉厚生部長		山越 幸民	山越 幸民	鹿森 品	鹿森 品
環境衛生部長		山田幸四郎	山田幸四郎	山田幸四郎	山田幸四郎
防災防犯部長		雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔
交通安全対策部長		加藤 猛	加藤 猛	赤坂 稔	赤坂 稔
青少年育成部長		加賀谷正光	加賀谷正光	竹内 博美	竹内 博美
体育部長		山下 紀雄	山下 紀雄	山下 紀雄	山下 紀雄
女性部長		森 美代子	森 美代子	森 美代子	森 美代子
広報部長・地域情報部長					鈴木 亨
理 事		西部 慎三	西部 慎三	浅田 隆	浅田 隆
		中山 勝之	中山 勝之	坂本 一郎	坂本 一郎
		黒澤 勝昭	黒澤 勝昭	森田 秀弘	佐々木正文
		斉藤 正敏	斉藤 正敏	山越 幸民	山越 幸民
		臼井 敏勝	臼井 敏勝	臼井 敏勝	臼井 敏勝
		鹿森 品	鹿森 品	鈴木 亨	大藤 一典
		鈴木 亨	鈴木 亨	大藤 一典	古部 貞春
		大藤 喜一 古部 貞春	大藤 喜一 古部 貞春	古部 貞春	

歴代職員名簿

清田中央連絡所					
所 長	塩澤 正樹	塩澤 正樹	高橋 和夫	高橋 和夫	
職 員	工藤千万子	中島 史子	中島 史子	中島 史子	
	佐藤 成子	佐藤 成子	佐藤 成子	森岡 尚子	
会館管理人	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔	

平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
恩村 一郎	恩村 一郎	恩村 一郎	恩村 一郎	恩村 一郎	恩村 一郎
加賀谷正光	加賀谷正光	加賀谷正光	加賀谷正光	青木 一夫	青木 一夫
青木 一夫	青木 一夫	青木 一夫	青木 一夫	山下 紀雄	山下 紀雄
金子 正一	松原 隆一	松原 隆一	松原 隆一	森 美代子	森 美代子
松原 隆一	森 美代子	森 美代子	森 美代子 山下 紀雄	鈴木 亨	鈴木 亨
菅野 常明	菅野 常明	臼井 敏勝	臼井 敏勝	臼井 敏勝	臼井 敏勝
黒澤 勝昭	山下 紀雄	山下 紀雄	天野 忠任	天野 忠任	天野 忠任
	黒澤 勝昭	黒澤 勝昭	黒澤 勝昭	山下 紀雄	山下 紀雄
鹿森 品	鹿森 品	鹿森 品	鹿森 品	鈴木 亨	鈴木 亨
山田幸四郎	山田幸四郎	山田幸四郎	山田幸四郎	山田幸四郎	山田幸四郎
雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔
赤坂 稔	赤坂 稔	赤坂 稔	赤坂 稔	赤坂 稔	赤坂 稔
竹内 博美	竹内 博美	竹内 博美	竹内 博美	竹内 博美	竹内 博美
渡邊 貞俊	渡邊 貞俊	渡邊 貞俊	渡邊 貞俊	渡邊 貞俊	渡邊 貞俊
森 美代子	見上 佳子	見上 佳子	見上 佳子	見上 佳子	見上 佳子
鈴木 亨	鈴木 亨	鈴木 亨	鈴木 亨	古賀 陽一	古賀 陽一
浅田 隆	浅田 隆	浅田 隆	刑部 紀元	刑部 紀元	刑部 紀元
坂本 一郎	坂本 一郎	坂本 一郎	坂本 一郎	坂本 一郎	坂本 一郎
山下 紀雄	森下 藤雄	加藤 清	加藤 清	加藤 清	加藤 清
森下 藤雄	天野 忠任	森下 藤雄	森下 藤雄	森下 藤雄	森下 藤雄
山越 幸民	臼井 敏勝	天野 忠任	今井 義治	横山 武士	横山 武士
臼井 敏勝	今井 義治	今井 義治	大藤 一典	山地 宏重	山地 宏重
大藤 一典	大藤 一典	大藤 一典	関口 栄吉	鹿森 品	奥山 育男
古部 貞春	関口 栄吉	関口 栄吉		杉田 伸正	杉田 伸正
				今井 義治	金田 光司
				大藤 一典	大藤 一典
				関口 栄吉	関口 栄吉
				井土 英幸	井土 英幸

清田中央まちづくりセンター

西村 聡	西村 聡	小島 千尋	小島 千尋	石塚 雅康	石塚 雅康
工藤美貴子	工藤美貴子	工藤美貴子	今井 容子	今井 容子	今井 容子
森岡 尚子	竹内 絹江	竹内 絹江	小林 多世	小林 多世	小林 多世
雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔

歴代役員名簿

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
顧問	恩村 一郎	恩村 一郎	恩村 一郎	恩村 一郎
相談役			青木 一夫	青木 一夫
会長	青木 一夫	青木 一夫	鈴木 亨	鈴木 亨
副会長	山下 紀雄	山下 紀雄	山下 紀雄	山下 紀雄
	森 美代子	森 美代子	森 美代子	森 美代子
	鈴木 亨	鈴木 亨	山地 宏重	山地 宏重
監事	臼井 敏勝	臼井 敏勝	臼井 敏勝	臼井 敏勝
	天野 忠任	天野 忠任	天野 忠任	天野 忠任
理事	横山 武士	横山 武士	横山 武士	横山 武士
	山地 宏重	刑部 紀元	刑部 紀元	刑部 紀元
	刑部 紀元	坂本 一郎	田利 守	田利 守
	坂本 一郎	森下 藤雄	谷崎 和幸	谷崎 和幸
	森下 藤雄	奥山 育男	斉藤 正敏	斉藤 正敏
	奥山 育男	加藤 清	奥山 育男	奥山 育男
	加藤 清	杉田 伸正	加藤 清	加藤 清
	杉田 伸正	柏崎 武敏	杉田 伸正	杉田 伸正
	柏崎 武敏	金田 光司	柏崎 武敏	柏崎 武敏
	金田 光司	大藤留美子	金田 光司	石巻 整三
	大藤留美子	坪坂 昇	大藤留美子	大藤留美子
	坪坂 昇	井土 英幸	坪坂 昇	坪坂 昇
	井土 英幸		佐々木誠治	
総務部長	山下 紀雄	山下 紀雄	山下 紀雄	山下 紀雄
財務部長	山下 紀雄	山地 宏重	山地 宏重	山地 宏重
福祉厚生部長	鈴木 亨	工藤 辰男	工藤 辰男	本間 慎一
環境衛生部長	山田 賢二	山田 賢二	山田 賢二	山田 賢二
防災防犯部長	雨宮 稔	雨宮 稔	一関 庶路	一関 庶路
交通安全対策部長	赤坂 稔	赤坂 稔	赤坂 稔	赤坂 稔
青少年育成部長	竹内 博美	竹内 博美	竹内 博美	竹内 博美
体育部長	渡邊 貞俊	渡邊 貞俊	渡邊 貞俊	渡邊 貞俊
女性部長	見上 佳子	見上 佳子	東海林三恵子	東海林三恵子
地域情報部長	古賀 陽一	古賀 陽一	古賀 陽一	古賀 陽一

歴代職員名簿

清田中央まちづくりセンター				
所長	徳光 雅浩	徳光 雅浩	大櫛 政行	大櫛 政行
職員	池内 佐記	池内 佐記	池内 佐記	橋 仁美
	五十嵐典子	小山早緒里	小山早緒里	小山早緒里
会館管理人	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔	雨宮 稔

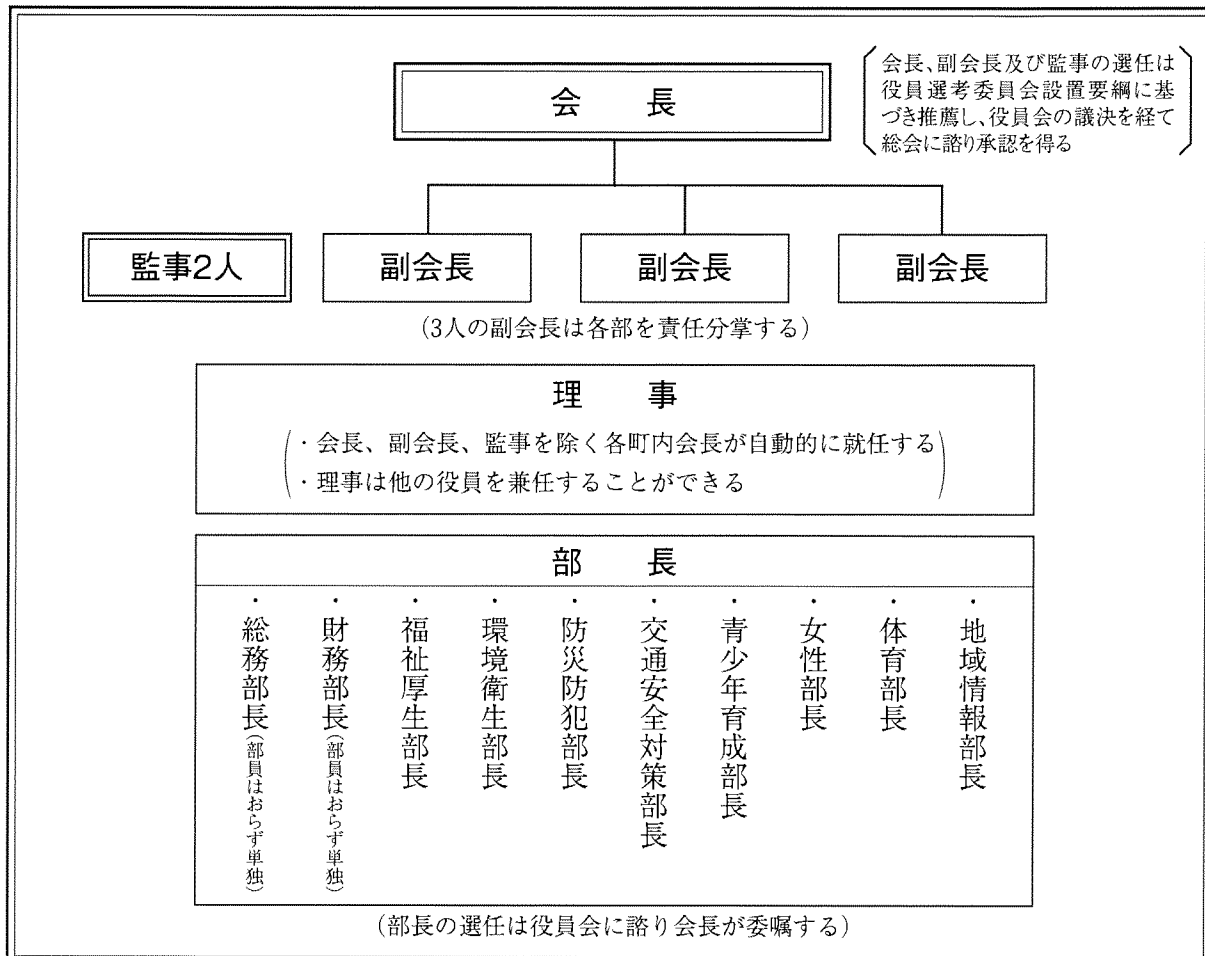
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
恩村 一郎	恩村 一郎	恩村 一郎	恩村 一郎	恩村 一郎	恩村 一郎
青木 一夫	青木 一夫 森 美代子	森 美代子	森 美代子	森 美代子	森 美代子
鈴木 亨	鈴木 亨	鈴木 亨	鈴木 亨	鈴木 亨	鈴木 亨
山下 紀雄	山下 紀雄	山下 紀雄	山下 紀雄	山下 紀雄	谷崎 和幸
森 美代子	山地 宏重	山地 宏重	谷崎 和幸	谷崎 和幸	田利 守
山地 宏重	谷崎 和幸	谷崎 和幸	田利 守	田利 守	黒田 隆樹
横山 武士	横山 武士	横山 武士	横山 武士	横山 武士	横山 武士
天野 忠任	天野 忠任	天野 忠任	坪坂 昇	坪坂 昇	山下 紀雄
刑部 紀元	刑部 紀元	刑部 紀元	市村勝太郎	市村勝太郎	市村勝太郎
田利 守	田利 守	田利 守	刑部 紀元	森 謙一	森 謙一
谷崎 和幸	斉藤 正敏	斉藤 正敏	斉藤 正敏	斉藤 正敏	斉藤 正敏
斉藤 正敏	奥山 育男	奥山 育男	奥山 育男	奥山 育男	今 紀治
奥山 育男	加藤 清	加藤 清	五十嵐 徹	五十嵐 徹	五十嵐 徹
加藤 清	高橋 信隆	高橋 信隆	大山 末光	大山 末光	大山 末光
高橋 信隆	黒田 隆樹	黒田 隆樹	高橋 信隆	高橋 信隆	高橋 信隆
黒田 隆樹	三上 明	三上 明	黒田 隆樹	黒田 隆樹	三上 明
三上 明	柏崎 武敏	柏崎 武敏	三上 明	三上 明	高杉 昌利
柏崎 武敏	石巻 整三	石巻 整三	柏崎 武敏	高杉 昌利	高島 征年
石巻 整三	大藤留美子	大藤留美子	高島 征年	高島 征年	大藤留美子
大藤留美子	坪坂 昇	坪坂 昇	大藤留美子	大藤留美子	花松 繁
坪坂 昇	松井希光洋	小泉 和透	小泉 和透	花松 繁	久保田大介
松井希光洋				久保田大介	
山下 紀雄	山下 紀雄	山下 紀雄	山下 紀雄	山下 紀雄	黒田 隆樹
山地 宏重	山地 宏重	山地 宏重	山地 宏重	山地 宏重	山地 宏重
本間 慎一	本間 慎一	本間 慎一	本間 慎一	本間 慎一	本間 慎一
山田 賢二	新吾 小一	新吾 小一	新吾 小一	新吾 小一	新吾 小一
一関 庶路	一関 庶路	一関 庶路	一関 庶路	一関 庶路	一関 庶路
赤坂 稔	赤坂 稔	赤坂 稔	赤坂 稔	赤坂 稔	赤坂 稔
山下 紀雄	谷崎 和幸	谷崎 和幸	斉藤 正敏	斉藤 正敏	斉藤 正敏
渡邊 貞俊	渡邊 貞俊	渡邊 貞俊	渡邊 貞俊	渡邊 貞俊	渡邊 貞俊
東海林三恵子	東海林三恵子	東海林三恵子	東海林三恵子	東海林三恵子	東海林三恵子
古賀 陽一	古賀 陽一	古賀 陽一	古賀 陽一	古賀 陽一	田利 守

清田中央まちづくりセンター

大櫛 政行	西尾香奈子	西尾香奈子	上野 佳代	上野 佳代	上野 佳代
橘 仁美	菅原 摂子	菅原 摂子	菅原 摂子	中本奈都美	中本奈都美
二ツ川順子	二ツ川順子	二ツ川順子	小西 薫	小西 薫	小西 薫
臼井 敏勝	臼井 敏勝	臼井 敏勝	臼井 敏勝	臼井 敏勝	臼井 敏勝

清田中央地区町内会連合会 役員組織図等

〔役員組織図〕



〔会 議〕

名 称	構成員等	審議事項等
総 会	上記役員及び各町内会代議員で構成 会長が招集、議長は総会で選出	事業計画・報告、収支予算・決算、会則の改廃、 運営に必要な事項の審議 ※最高議決機関(定期総会は毎年4月開催)
役員会	上記役員で構成 会長が招集、議長は副会長	重要な会務、業務執行上必要な事項の審議 ※総会に次ぐ議決機関
三役会	会長、副会長、総務部長、財務部長で構成 会長が招集、議長は副会長	重要な運営事項、役員会付議事項の審議
部長会	各部長で構成 総務部長が招集、議長は総務部長	各部間の相互理解と情報交換の場で各部の 活動に寄与するもの
部 会 (総務部、財務部を除く)	部長及び各町内会の関係部長で構成 各部長が招集、議長は部長	各部の業務の実施についての審議

清田中央地区町内会連合会 会則

H31.4.20最終改正

第1章 総則

(名称及び事務所)

第1条 本会は、清田中央地区町内会連合会と称し、事務所を札幌市清田区清田6条2丁目10番1号清田中央総合会館内に置く。

(組織)

第2条 本会は、清田中央地区に所在する町内会・自治会（以下、「町内会」という。）をもって組織する。

(目的)

第3条 本会は、町内会相互の連絡を密にし、相協力して共通する問題の研究協議及びその解決に当たり、効果的な事業の推進により地区住民の福祉増進と、安全・安心そして明るく住み良い、心の通い合うまちづくりを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 地域住民の融和と社会福祉の増進を図るための事業
- (2) 地域の環境衛生、防災、防犯、交通安全等の推進を図るための事業
- (3) 青少年の健全育成、体育の向上及び女性の教養・地位の向上を図るための事業
- (4) その他地域の発展に必要と認めた事業

第2章 機構

(部制)

第5条 本会は、前条の事業を運営するため次の部を置き、その業務を分掌する。

(1) 総務部

- ① 本会運営の総括事項及び庶務一切に関する事項
- ② 事業計画の立案に関する事項
- ③ 渉外業務及び他部との連絡調整に関する事項
- ④ その他各部に属さない事項

(2) 財務部

- ① 会費等の徴収に関する事項
- ② 予算決算及び会計事務に関する事項
- ③ 財産及び物品の管理に関する事項
- ④ その他財務上必要な事項

(3) 福祉厚生部

- ① 高齢者、児童生徒、一人親家庭及び障がい者等の福祉に関する事項
- ② 福祉のまち推進センターの活動への協力支援に関する事項
- ③ 共同募金、日赤募金等社会募金活動への協力調整に関する事項
- ④ その他福祉厚生に必要な事項

(4) 環境衛生部

- ① 環境衛生思想の普及に関する事項
- ② 環境美化、清掃の奨励、ゴミ減量及びリサイクル意識の醸成に関する事項
- ③ 公害対策に関する事項
- ④ 健康増進に関する事項
- ⑤ その他環境衛生に必要な事項

(5) 防災防犯部

- ① 火災予防及び防犯思想の普及に関する事項
- ② 防災訓練等に関する事項
- ③ 防火活動、特に災害応急対策、災害情報の収集及び通信連絡に関する事項
- ④ 防犯パトロールの実施及び防犯灯の設置に関する事項
- ⑤ その他防災・防犯に必要な事項

(6) 交通安全対策部

- ① 交通安全思想の普及に関する事項
- ② 交通安全施設の整備促進及び交通指導協力に関する事項
- ③ 冬季除雪に関する事項
- ④ その他交通安全に必要な事項

(7) 青少年育成部

- ① 青少年の健全育成に関する事項
- ② 子ども会の育成に関する事項
- ③ その他青少年育成に必要な事項

(8) 女性部

- ① 女性の教養及び文化の向上に関する事項
- ② 家庭生活の改善に関する事項
- ③ その他女性活動に必要な事項

(9) 体育部

- ① 社会体育の奨励と指導に関する事項
- ② レクリエーション行事等の実施に関する事項
- ③ その他体育の推進に必要な事項

(10) 地域情報部

- ① 町連だよりの発行
- ② 町連ホームページの管理運営
- ③ その他広報活動に関する事項

第3章 役員

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 3名
- (3) 監事 2名
- (4) 理事 上記(1)から(3)に掲げる役員を除く町内会長
- (5) 部長 各部に1名

(役員等の選任)

第7条 会長、副会長及び監事は別に定める役員選考委員会設置要綱に基づき推薦し、役員会の議決を経て総会に諮り承認を得る。

- 2 理事は、町内会長が自動的に就任する。
- 3 理事は、他の役員を兼任することができる。
- 4 部長は、役員会に諮り会長が委嘱する。
- 5 部長は、副部長を必要に応じて3名を限度に置くことができる。

(役員等の任務)

第8条 役員等(第6条各項において規定する者をいう。以下同じ。)の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は本会を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときはあらかじめ定められた順序によりこれを代行する。
- (3) 監事は本会の会計及び会務の執行状況を毎年1回以上監査し、総会に報告する。
- (4) 理事は、役員会の議決を経て会務を分掌し、その任にあたる。
- (5) 各部長は、第5条の各号に定める業務を分掌し、副部長は部長を補佐する。

(役員等の任期)

第9条 役員等の任期は2年とし、再任は妨げない。ただし交代または補欠により就任した役員等の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 前項によりがたいときは、役員選考委員会設置要綱に基づくものとする。
- 3 役員等は任期満了後も後任者が就任するまで、その職務を行う。

第4章 顧問・相談役

(顧問・相談役)

第10条 本会に顧問、相談役を置くことができる。

- 2 顧問、相談役は総会において推薦し、会長が委嘱する。
- 3 顧問、相談役は会長の諮問に応じ意見を述べることができる。

第5章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は総会、役員会、三役会、部長会及び部会とする。

- 2 総会、役員会及び三役会は会長が招集し、部長会は総務部長が、部会は部長がこれを招集する。
- 3 総会の議長は総会で選出し、役員会及び三役会の議長は副会長が、部長会の議長は総務部長が、部会の議長は部長がそれぞれ務める。

(総会)

第12条 総会は、本会の最高議決機関として役員及び代議員をもって構成し、代議員の過半数の出席によって成立する。ただし、委任状提出者は出席者とみなす。

- 2 代議員の数は別表のとおりとする。
- 3 定期総会は毎年4月に開催し、臨時総会は必要に応じて開催する。
- 4 総会の議事は出席代議員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長がこれを決する。

(総会の議決事項)

第13条 総会は、次に掲げる事項を議決する。

- (1) 事業計画及び事業報告に関する事項
- (2) 収支予算及び収支決算に関する事項
- (3) 会則の改廃に関する事項
- (4) その他本会の運営に必要な事項

(役員会)

第14条 役員会は、総会に次ぐ議決機関として、会長、副会長、監事、理事及び部長をもって構成し、重要な会務及び業務執行上必要な事項について審議する。

- 2 会長が必要と認めるときは、役員以外の者を役員会に出席させ、意見を求めることができる。

(三役会)

第14条の2 三役会は、会長、副会長、総務部長及び財務部長をもって構成し、本会の運営にかかる重要な事項及び役員会の付議事項について審議する。

(部長会)

第15条 部長会は、各部長をもって構成し、各部門の相互理解と情報交換の場とし、各部の活動に寄与するものとする。

(部会)

第16条 部会(総務部及び財務部を除く。)は、部長及び各町内会の関係部長をもって構成し、第5条各号に定める業務の実施について審議する。

第6章 会計処理

(経費)

第17条 本会の経費は会費、助成金、寄付金その他の収入をもって充てる。

- 2 各町内会の年間会費負担額は役員会で定め、総会の承認を受ける。

(簿冊の整備)

第18条 本会は、次の簿冊を整備する。

- (1) 役員名簿
- (2) 事業計画書及び事業実施報告書
- (3) 予算経理簿
- (4) 収支証票綴
- (5) 財産及び備品台帳
- (6) その他必要な書類

(会計監査)

第19条 監事は、次の事項について監査する。

- (1) 業務執行の適否
- (2) 現金・預金等出納経理の適否

(会計年度)

第20条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第7章 雑則

(特別委員会・内規)

第21条 会長が必要と認めるときは、特別委員会を設けることができる。

- 2 特別委員会の委員は、役員会の承認を経て会長が委嘱する。
- 3 会長が必要であると認めるときは、役員会の議決を経て内規を定めることができる。

(表彰)

第22条 本会の表彰規程は、別に定める。

(慶弔)

第23条 本会の慶弔規程は、別に定める。

(事務局)

第24条 本会に事務局を設け、局長及び職員を置くことができる。

- 2 事務局の規程は、別に定める。

附 則

1 本会則施行当時、町内会未組織の地域で現に住民組織（街路灯組合等）があるときは、これを町内会とみなすことができる。

2 削除

3 第5条の規定により置かれる部のうち、これを対外的に用いる場合の名称は、次のとおり読み替えることができる。

- (1) 女性部は、清田中央地区交通安全母の会

4 削除

5 本会則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

本会則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

本会則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

本会則は、平成12年5月7日から施行する。

附 則

本会則は、平成15年5月11日から施行する。

附 則

本会則は、平成18年5月7日から施行する。

附 則

本会則は、平成19年5月13日から施行する。

附 則

本会則は、平成20年5月11日から施行する。

附 則

1 本会則は、平成23年5月8日から施行する。

2 平成2年4月1日付附則第2項及び第4項は、これを削除する。

附 則

本会則は、平成25年5月12日から施行する。

附 則

本会則は、平成31年4月20日から施行する。

〈別表〉

第12条第2項に規定する代議員数は以下のとおりとする。

町内会の加入世帯数	代議員数
100世帯以下	2名
101世帯から200世帯まで	3名
201世帯から400世帯まで	4名
401世帯以上	5名

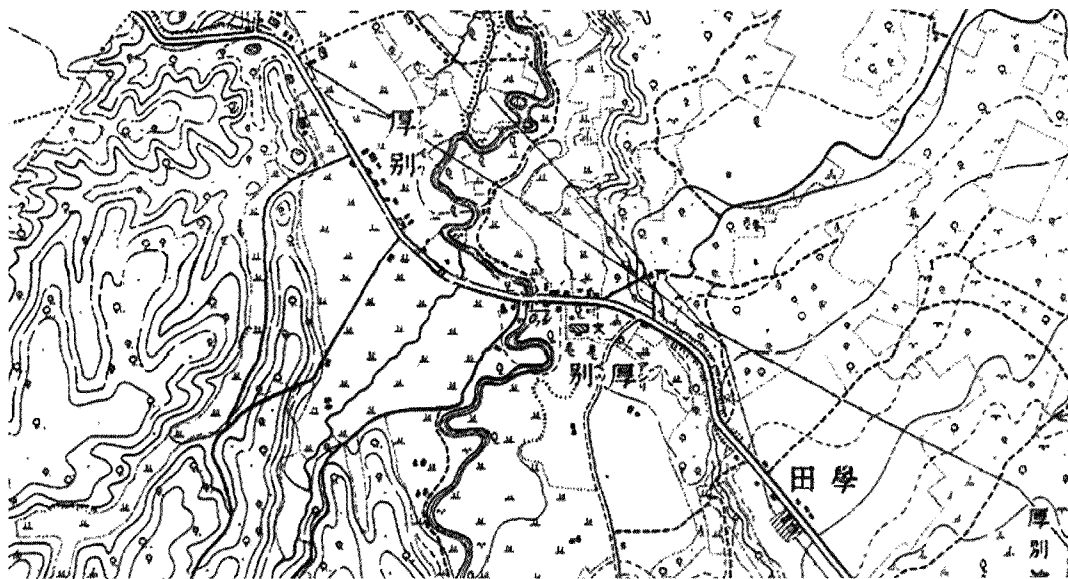
加入世帯数は、各年1月1日現在のものとする。

清田中央地区の地図による沿革

今昔マップ on the web (地理院地図) による時代の流れ比較

大正5年(1916年)

- 清田が「厚別(アシリベツ)」と呼ばれていた
- 平岡方面に「學田」という地名がみえる
- 厚別小学校(現清田小)がみえる



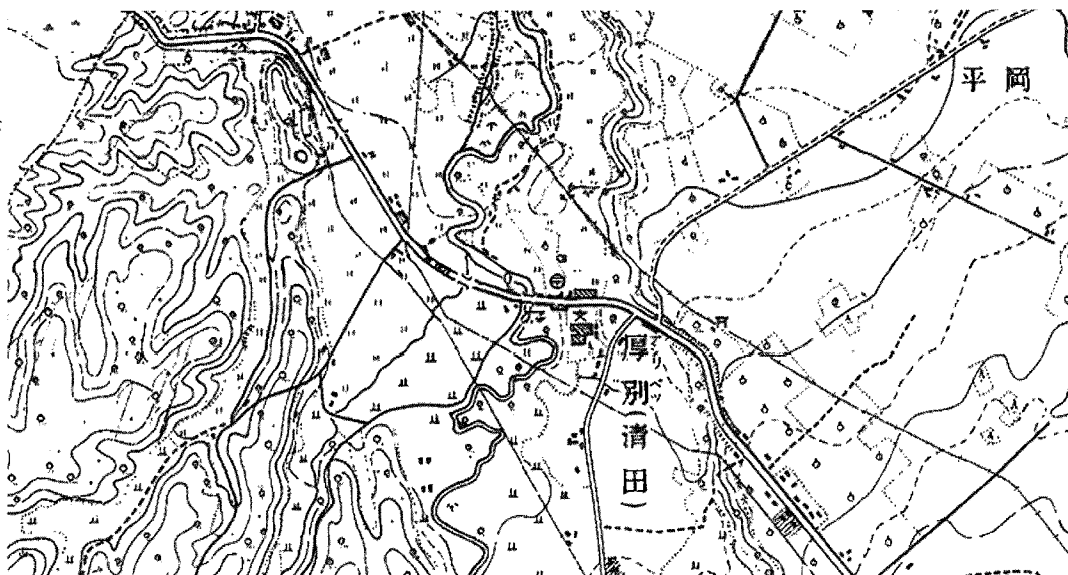
昭和10年(1935年)

- 「厚別(アシリベツ)」という地名がみえる
- 現在の「厚別(アシリベツ)神社」が建設されている



昭和25~27年(1950~1952年)

- 「厚別(清田)」という地名がみえる
- 厚別から清田に変更となったのは昭和19年
- 厚別(アシリベツ)郵便局が記されている



「厚別(あしりべつ)時代」一口メモ (あしりべつ郷土館資料、「清田地区百年史」、「清田団地の歩み」から)

●「あしりべつ」の名称

- 「あしりべつ」という言葉は「厚別川(あしりべつ川)」に関係する。アイヌ語に由来するが、江戸時代の頃は「アシュシヘツ」、「アシュウシベツ」などと呼ばれていた。その後明治となり開拓がはじまり「アシシヘツ」、「アシスベツ」と呼ばれ、明治後期に「アシリベツ」と変化した。
- 明治27年に函館本線「厚別駅」が出来、呼び名が漢字そのままに「あつべつ駅」となったため、「厚別」と書いて「あしりべつ(川)」と「あつべつ(地域名)」の2つの呼び方となった。

●厚別(あしりべつ)の地名変更

昭和19年(1944)3月、当時の豊平町議会で厚別の地区の戸数が増えて番地の数が大きくなったため6つの区域に分けられて新しい地名がつけられた

新しい地名	元の地名	新しい地名の由来
●豊平町「清田」	豊平町大字月寒字「厚別本通」〇〇番地	美しい清らかな水田地帯
●豊平町「平岡」	豊平町大字月寒字「厚別本通」〇〇番地 (通称「坂の上」)	平坦な台地(岡)
●豊平町「真栄」	豊平町大字月寒字「厚別南通」〇〇番地	神のお恵みで益々栄える
●豊平町「北野」	豊平町大字月寒字「厚別北通」〇〇番地	厚別の北に広がる原野
●豊平町「里塚」	豊平町大字月寒字「厚別三里塚」〇〇番地	札幌の中心から三里の印(塚)があった。三を削って里塚
●豊平町「有明」	豊平町大字月寒字「厚別公有地」〇〇番地	篠路屯田兵村の公有地であった 「有」の字を生かし、明朗活達の意を加えて有明となる

〈月寒村〉明治4年(1871年)開村、明治35年(1902年)豊平村に合併

〈豊平村〉明治7年(1874年)開村、明治41年(1908年)豊平町となる、昭和36年(1961年)札幌市に合併

●厚別(あしりべつ)小学校の変遷(現清田小学校)

- 明治28年(1895年) 長岡重治の家で寺小屋による学校が開かれた
- 明治32年(1899年) 月寒尋常小学校厚別分教場(清田で最初の学校)
- 明治34年(1901年) 札幌郡厚別尋常小学校
- 大正13年(1924年) 札幌郡厚別尋常高等小学校
- 昭和16年(1941年) 札幌郡厚別国民学校
- 昭和22年(1947年) 札幌郡豊平町立厚別小学校
- 昭和36年(1961年) 札幌市立厚別小学校(札幌市との合併)
- 昭和47年(1972年) 札幌市立清田小学校となる

●厚別(あしりべつ)中学校の変遷(現清田中学校)

- 昭和22年(1947年) 札幌郡豊平町立月寒中学校厚別分校として開校
- 昭和23年(1948年) 札幌郡豊平町立厚別中学校として独立(現在の清田小学校に隣接して建設)
- 昭和36年(1961年) 札幌市立厚別中学校(札幌市との合併)
- 昭和39年(1964年) 現在地に中学校校舎が新築され移転
- 昭和47年(1972年) 札幌市立清田中学校となる

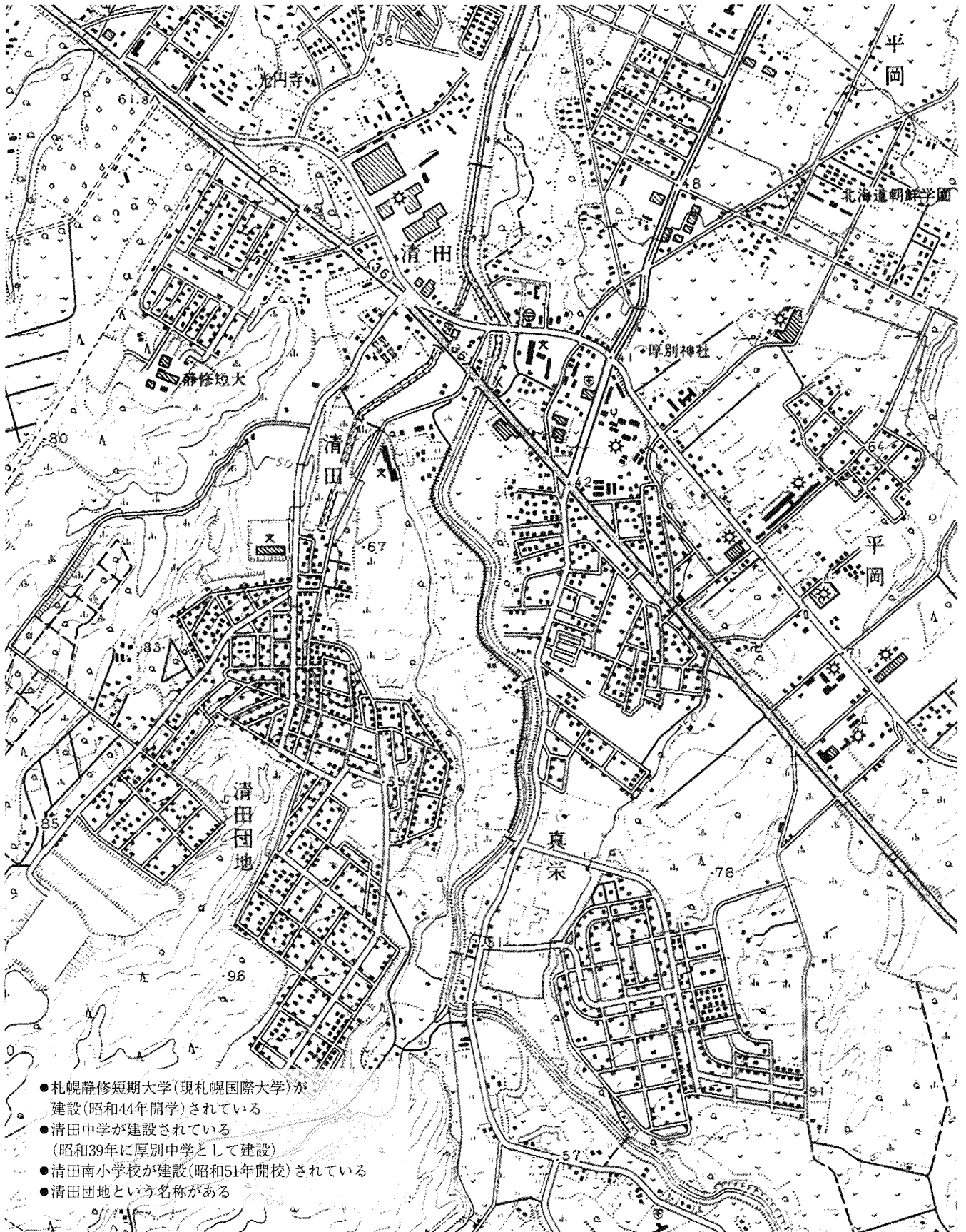
●国道36号線～弾丸道路

明治4年、函館から千歳を經由して札幌に向かう道を「札幌本道」と定められた。当初、森から室蘭まで海上航路であった。

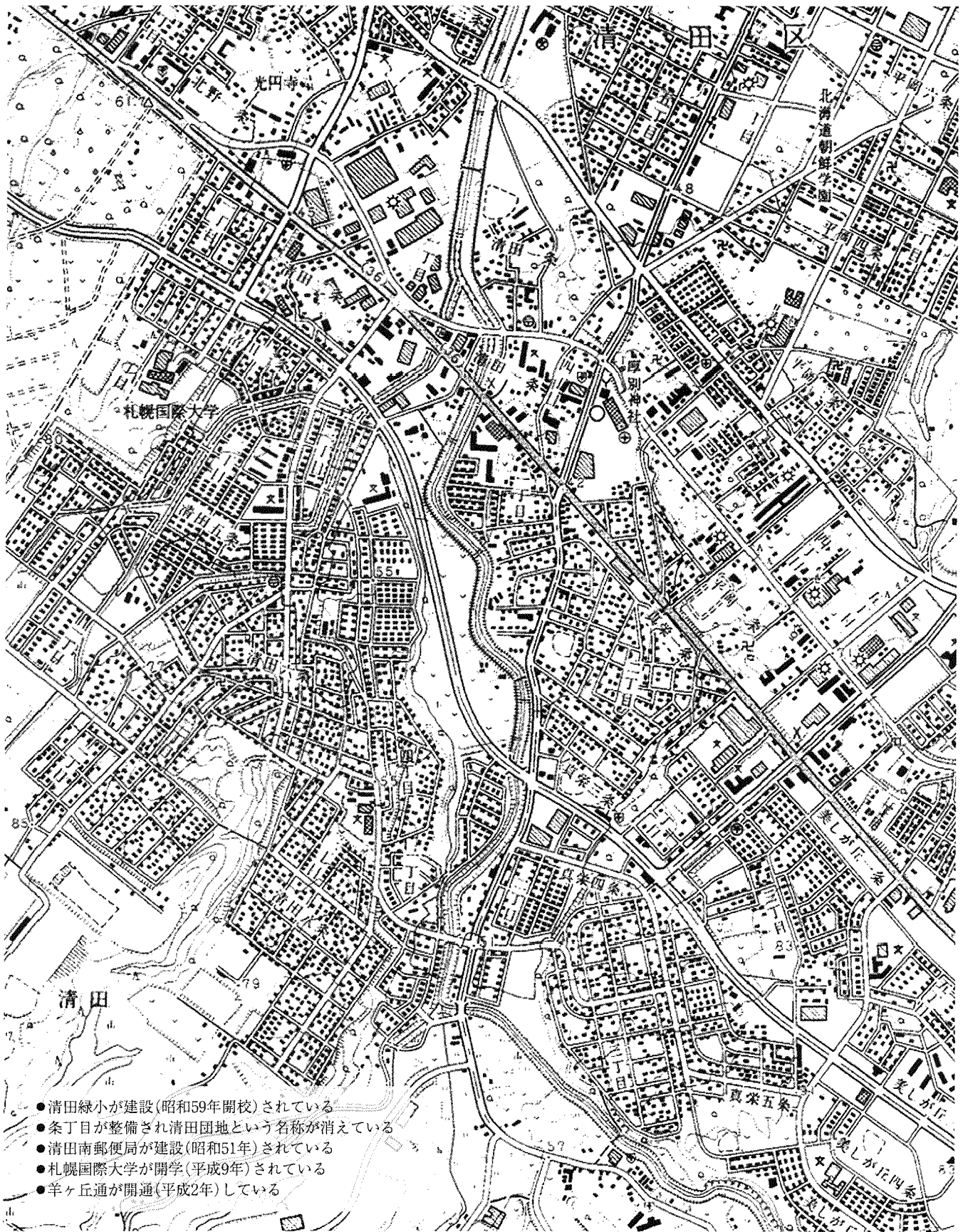
室蘭から札幌までの今の国道36号線は、昔「室蘭街道」とも呼ばれていた。この区間は昭和27年12月に新道路法に基づき「一般国道36号線」と指定された。これに先立ち同年10月から、札幌～千歳間の34.5kmを道幅7.5m、速度75km/hという高規格道路基準で北海道最初のアスファルト完全舗装工事として着工され、翌28年11月には、わずか約13ヶ月間という短期間の突貫工事で竣工した。それに由来して「弾丸道路」と呼ばれていた。

なお、「弾丸のようにスピードが出せるから」、「軍隊の弾薬を運んでいたため」などの説もある。

昭和50～51年(1975～1976年)

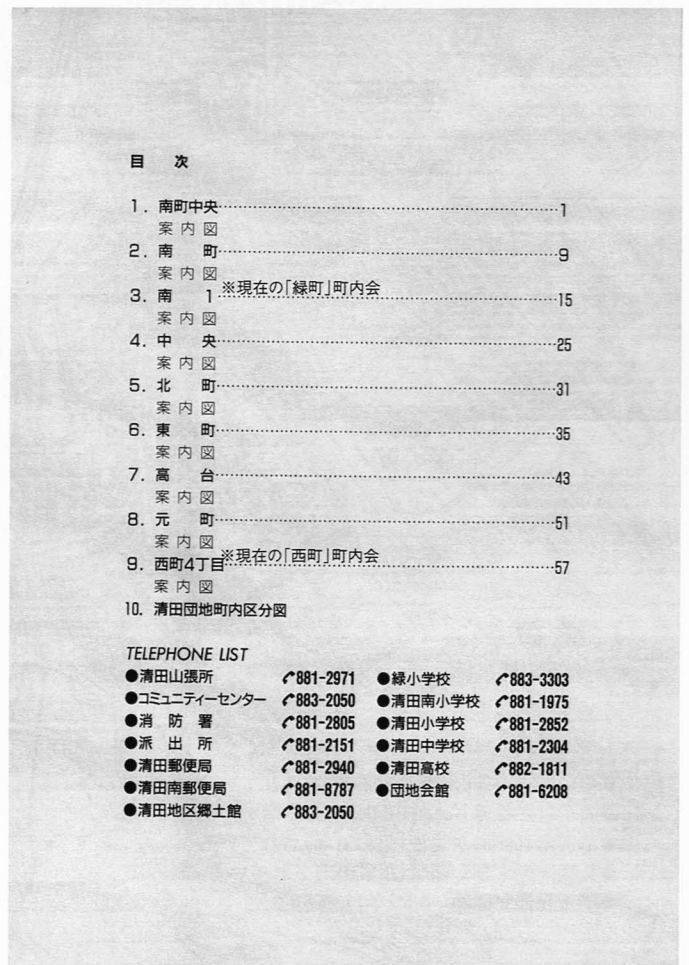
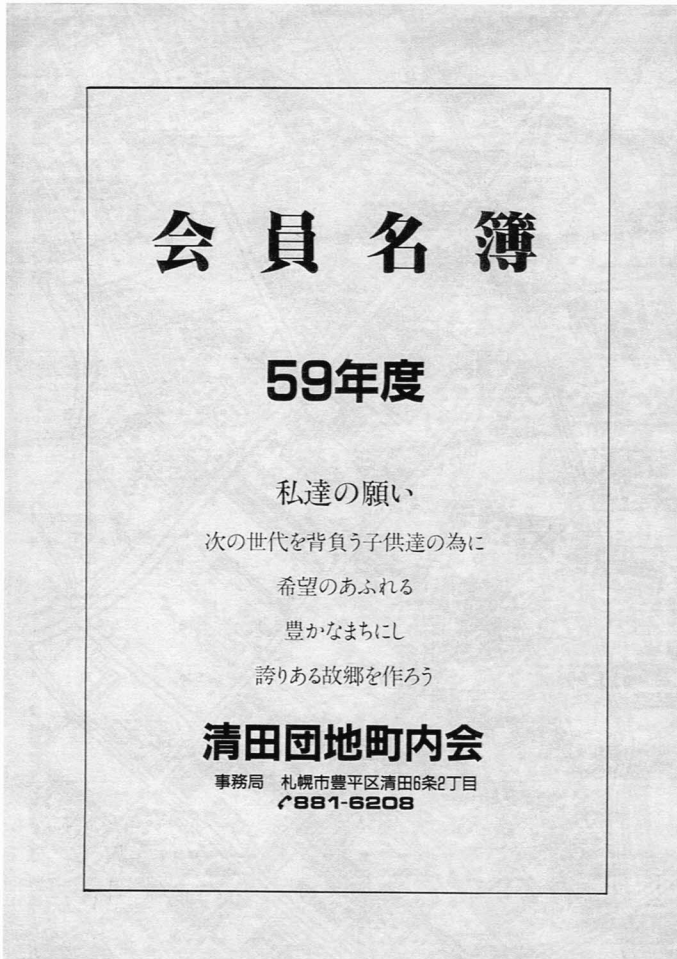


平成7～10年(1995～1998年)

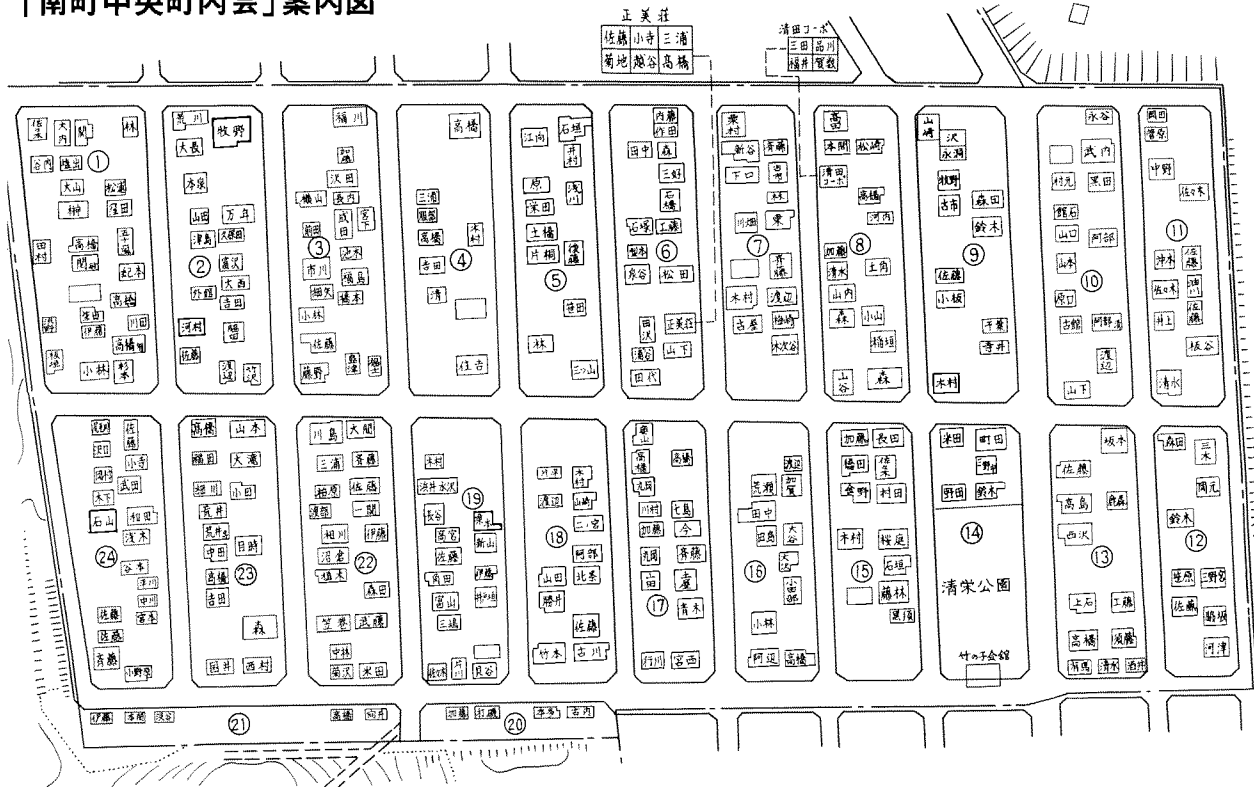


- 清田緑小が建設(昭和59年開校)されている
- 条丁目が整備され清田団地という名称が消えている
- 清田南郵便局が建設(昭和51年)されている
- 札幌国際大学が開学(平成9年)されている
- 羊ヶ丘通が開通(平成2年)している

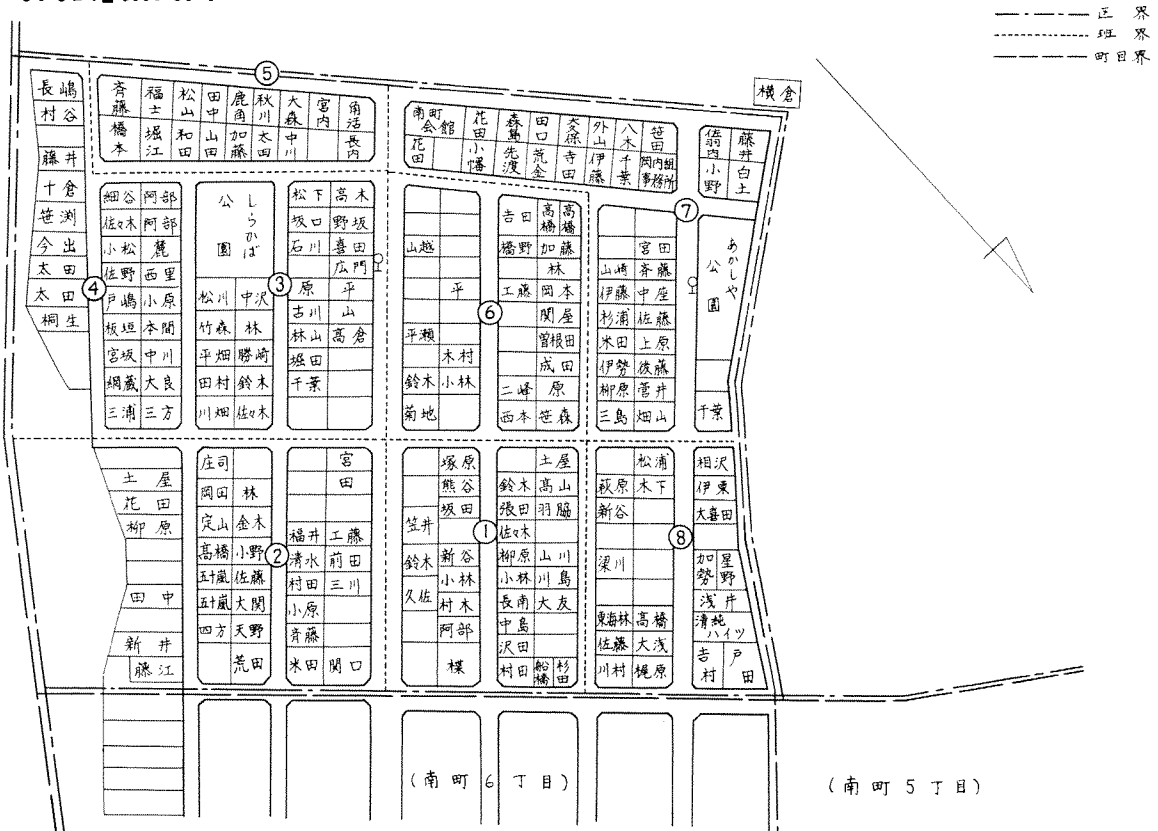
清田団地町内会作成の 「昭和59年度 会員名簿」における各町内会案内図



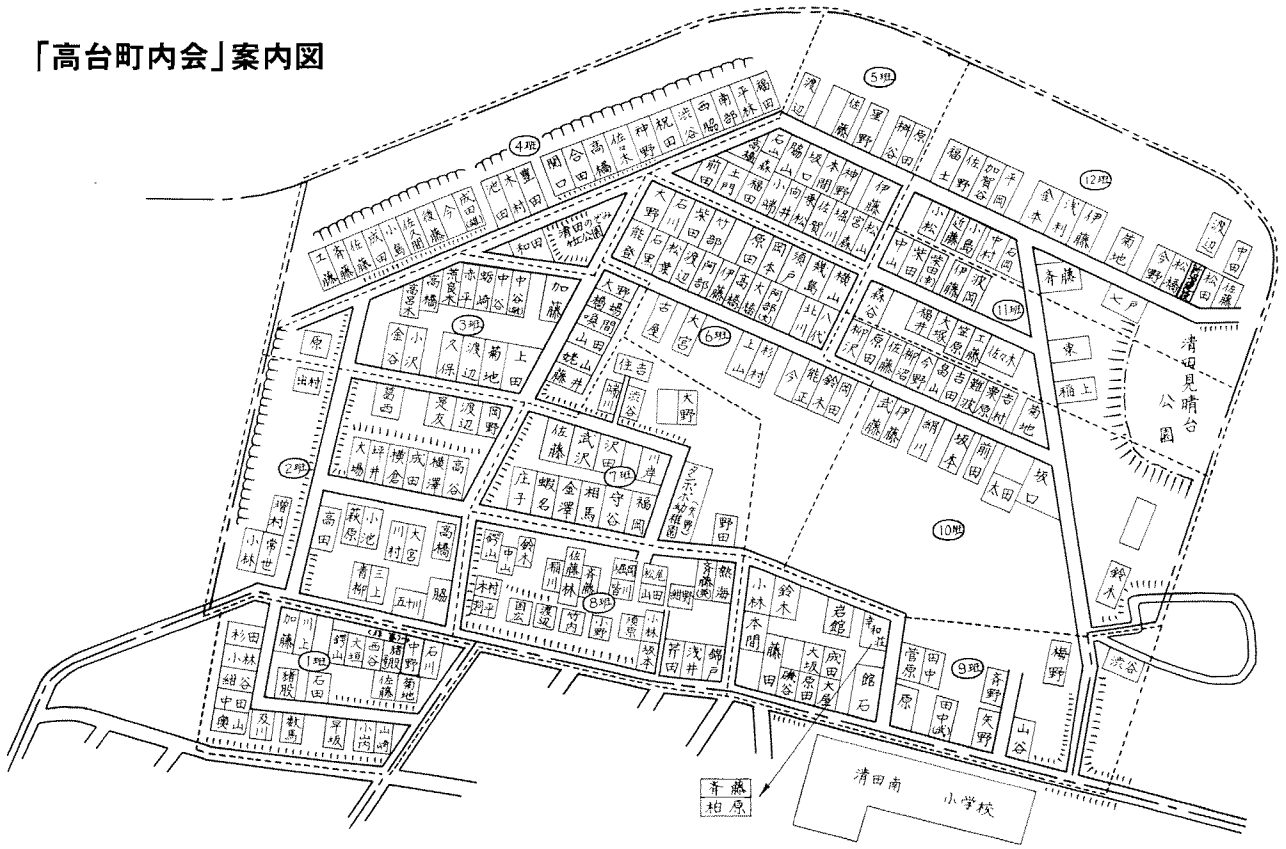
「南町中央町内会」案内図



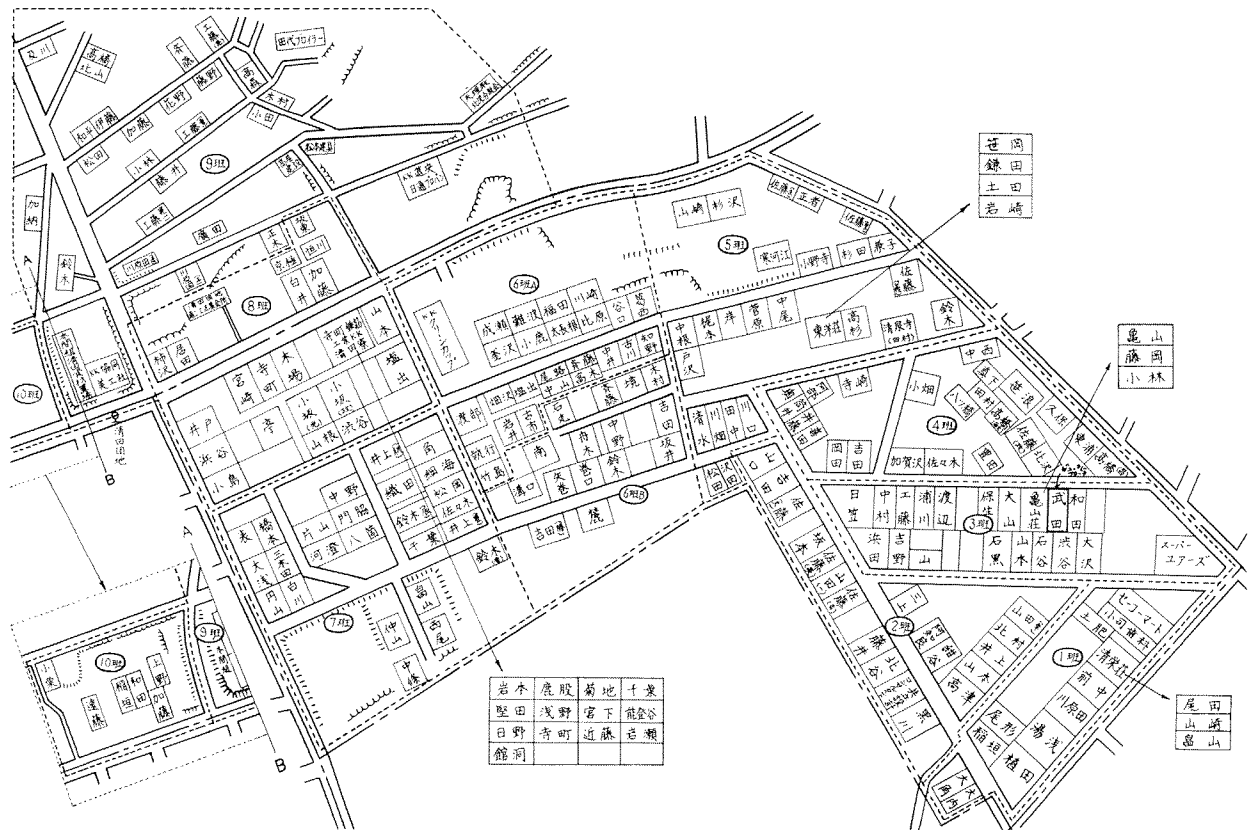
「南町町内会」案内図



「高台町内会」案内図



「元町町内会」案内図



岩本	鹿股	菊地	千兼
堅田	浅野	宮下	能金
日野	青町	近藤	志頼
館岡			

「西町4丁目町内会」案内図 (現在は「西町町内会」)

